

# SAKURA

Since 2013



Vol.74  
9・10月号  
2025.9.1発行

10周年からその先へ ずっと続く文化芸術



假屋崎 省吾



©斎藤 元

横山 幸雄



©Kosuke Atsumi

秋元 孝介



©Kosuke Atsumi

小川 響子



©Kosuke Atsumi

伊東 裕

## 聴いて良し、観て良し、さくらプラザで楽しむ、芸術の秋

== INDEX ==

### Pick Up Artist

①假屋崎 省吾 × 横山 幸雄 ピアノと花の華麗なる世界

假屋崎 省吾 (華道家)、横山 幸雄 (ピアノ)

②葵トリオ リサイタル

葵トリオ

秋元 孝介 (ピアノ)、小川 響子 (ヴァイオリン)、

伊東 裕 (チェロ)

### 連載

アメリカの文化芸術をもっと楽しみ、  
ちょっと詳しくなっちゃおう  
特別号/小田 直弥

リレーインタビュー  
横浜横断！地域連携コーディネーターに  
今を聞いてみた

人は皆 背中で語る…見返戸塚人

本誌の二次元バーコードは Cookie を使用しています。アクセス解析は匿名で収集されており、個人を特定するものではありません。この機能は Cookie を無効にすることで、Cookie を用いた収集を拒否することができますので、お使いのデバイスのブラウザの設定をご確認ください。



Web版





華道家  
假屋崎 省吾

ピアニスト  
横山 幸雄

～美を極めた2人のアーティストによる奇跡の響演！～

横浜市では2027年に国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）が開催されます。それに合わせて、日本のクラシック界を代表するピアニスト横山幸雄さんと華道家としてテレビ等でも馴染みの假屋崎省吾さんによるピアノと花のコラボレーション公演を、2025年9月14日（日）に開催いたします。おふたりにステージでの演出や空間づくり、共演にあたりお互いから受けた影響などについてお伺いしました。

—お花とピアノのコラボレーションコンサートは15年ほど続いているとお伺いしていますが、おふたりならではの共演の魅力やエピソードがあれば教えてください。

横山 幸雄（一以下、横山）—お花とのコラボレーションと、假屋崎さんとのピアノ連弾、両方の魅力を感じています。お花のコラボレーションでは、既にステージに飾ってあるお花と、お花が出来上がっていく過程を見ながら、演奏することが特別な体験ですね。いけているところを見ながら演奏するのでピアノを弾く指が疎かにならないように気がついてます（笑）。最終的にお花が完成し、舞台が華やいだ雰囲気の中で演奏をするのがとても気持ち良いです。

假屋崎 省吾（一以下、假屋崎）—毎回、お花の種類やいけ方が変わりますし、演奏もその時々で違うものです。演奏は生ものなので、同じ演奏は二度とないですし、それがコンサートの魅力の一つだと思っています。通常の演奏会だと演奏だけですが、このコンサートではお花が加わることで、さらに特別なパフォーマンスができるのが楽しいです。

普通、演奏家は演奏に集中されるので、演奏中に周囲で何かをされるのは気になることが多いと思います。15年前にこの企画を提案してくださった方がいたから、お花とピアノのコラボレーションという面白いアイデアがこの試みを実現させてくれました。今までにないことなので、私自身も楽しみにやっています。ステージで生演奏を聴かせていただきながら、お花をいけさせていただく。年に何回かですが、これほど素晴らしい体験をさせていただけるのは、本当にありがたいですし、感謝しています。しかも横山さんとの連弾もあります。当初は易しい曲で始めた連弾も、今では段々とバージョンアップしてきて難しい曲になっています。

横山 —本業ではないのに、それでここまで。本人も楽しんで、お客さんも楽しませることができる演奏というのは、なかなかできるものではないです。僕は、お花は見て楽しむだけです。そして演奏中にお花がいけられていく様子を見ていますが、假屋崎さんはいけるのが早いですよね。

假屋崎 —一曲の時間に合わせてお花をいけていくので、曲目が変わるとそれに合わせていける内容も変わります。元々ピアノが好きだったので、曲の進行や流れは把握してはお花を入れるタイミングを考えています。例えばフォルテシモの部分では力強く、ピアノシモの時はそっと入れたり、最後の音で完成させることを目指しています。タイミングを合わせることに集中する、それがスリルとサスペンスを生んで、パフォーマンスの面白さの1つになります。

横山 —演奏しながらチラ見すると、お花がまだ少し空いているので、「もう少し何か加えるのかな？」とか「もう少しゆっくり弾いた方がいいかな？」と考えながら演奏しています。自分が弾いている時、真後ろでお花がいけられているとお花自体は見えにくいので、気配を感じながら演奏しています。鏡面のピアノですと、反射で少し様子を見ることができるので、その気配を感じて、絶妙なタイミングを見計らいながら弾いていますね。



横山 幸雄さん



假屋崎 省吾さん

—「音楽」と「お花」という異なるコラボレーション。異なる分野を融合するうえで、大切にされていることはありますか？

横山 —音楽とお花は全く異なる分野ですが、どちらも「美」の追求という共通点があります。さまざまなジャンルから刺激を受けることは、非常に楽しく、興味深いです。音楽において大切にしていることは、準備をして、トレーニングをして、練習して、その結果をただ発表することではなく、それを基に、その時その瞬間でしか感じられない音楽を表現できたいと思います。今回の戸塚での演奏でも、その日、その場にいらした方々にしか感じられない何かがあるといいなと思っています。

假屋崎 —「美」というものの共通項。美しいものはいろんな人に強いパワーを与え、癒しや元気、喜びなどプラスになるものをもたらします。演奏からもそのパワーや色彩も伝わりますよね。また、横山さんは食という五感にも長けていて、そこも素敵だなと思います。

—共演にあたり、お互いから受けた影響などはありますか？

横山 —ステージ上でお花を中心にさまざまな活動をされている假屋崎さんからは、経験から自然と滲み出てくるものを感じます。お花をいける姿や、お話を聞く中で、全体的なパフォーマンスがどう成り立っているのか、人前に立つときの假屋崎さんという人を見ていることが刺激になります。

假屋崎 —自分は裏表がなく、感情がそのまま表れるタイプです。頭にくるときはガンガン言うこともあります。年齢を重ねて少し丸くなってきて感じています。横山さんの前に立つと、子どもになったような感覚になります。無邪気に自分らしく振る舞える感覚があり、すごく緊張感もありますが、大尊敬している方なので緊張感はあるけど、「程よい緊張感」は大切だと思っています。襟を正してというのがすごく自分にあります。それがいい方向にスパークする感じがあるんですよ。

そして、会場に訪れる皆さんも緊張していると思いますが、お花を見て、「来て良かった」と感じてもらえるような雰囲気を作りたいと思っています。お花や音楽が瞬間の清涼感を与え、聴いたり観たりした後、「またCDでも聴きたい」と思ってもらえたら、私としても本当に嬉しいです。そして客席と舞台に一体感が出て、素敵な力がみなぎるといいなと思います。



連弾の写真



—ステージでの演出や空間づくりについて、意識されることは何ですか？

假屋崎 —ステージでの空間づくりでは、舞台の大きさや広さ、そして後ろの方までしっかり見えて、聴けることが大切です。お花は季節ごとにも変わるので、その季節感や色彩も重要な要素になります。これらを考えながら積み重ねていくものがあります。それは演奏も同じだと思いますが、経験値+αで何か新しいものが加わることで、より良いものが生まれると感じています。毎回、新鮮な気持ちで取り組んでいますし、その上で舞台をどうコントロールするかがポイントです。時には、あまり盛り上がりすぎない舞台というものもあるんですが、どうバランスを取るかが悩みどころですね。横山さんと一緒にやると、そこが全てプラスに働くので、非常に楽しいです。

横山 —通常の演奏会では、ステージにぽつんとピアノが置かれ、特別な演出が少ない分、音楽そのものに集中して聴いていただくことが多いです。お花があることで、会場全体が華やいだ雰囲気になり、その中での演奏は非常に気持ち良いですね。私はいつもお花を使いたいと思っていますが、毎回お花を用意するのは予算的・主催者の意向などもあり難しいこともあるので、今回のように、演奏と共に花をいけて、そしてお花と一緒に盛り上がる感じがとても良いですよ。



假屋崎 省吾×横山 幸雄 ピアノと花の華麗なる世界 2025年9月14日（日） 14:00 開演

残席僅少



假屋崎 省吾（華道家） Shogo Kariyazaki

元祖華道家。東京・銀座「假屋崎省吾 花教室」主宰。美輪明宏氏より「美をつむぎだす手を持つ人」と評され、クリントン米大統領をはじめ、国賓の来日歓迎装花や、明仁天皇御在位10年記念式典の舞台装飾、明仁天皇御退位・徳仁天皇御即位の特別番組スタジオ花装飾、花博覧会のプロデュースなど多数を手掛ける。女子美術大学・客員教授、フランス観光親善大使、オランダチューリップ大使などを務め、「世界で最も多いコサージュ展示」の世界ギネス記録にも認定される。また、着物、ガラス器、棺、骨董などのデザイン・プロデュースをおこない、デザイナーとしての才能を発揮。ライフワークでもある花と建物のコラボ個展「歴史的建築物に挑む」シリーズを世界遺産・国宝・重要文化財で開催している。その他、少子化問題、伝統工芸品の振興促進、花を通じた情操教育「花育」などの地域活性化を促す社会活動も取り組み、華道歴40周年を迎え、ますます卓越した存在感を放ち続けている。

Yukio Yokoyama 横山 幸雄（ピアニスト）



ショパン国際ピアノコンクールにおいて歴代の日本人として最年少入賞を果たしたクラシック界のトップアーティストとして常に注目を集めている。2010年ショパン生誕200年を記念して行われた14時間に及ぶ演奏会「入魂のショパン」はギネス世界記録に認定され、翌年には自らのギネス記録を更新。2019年ショパンが生涯で作曲した240曲のすべての作品を3日間で演奏するという前人未踏のプロジェクトで喝采を浴び、DVDとしてリリース。またベートーヴェン生誕250年にあたる2020年には、2日間でソナタ全曲を演奏する偉業を成し遂げ、全編収録DVDを発表。教育者、音楽プロデューサーとしても活躍。近年は自身の作曲作品の出版や、協奏曲の弾き振りを含め指揮者としても大成功を収めるなど、活動の場をさらに広げている。そして、2025年10月、ラヴェル生誕150年を記念したCD「ラヴェル ピアノ・ソロ作品全集」をリリース予定。数々の音楽大学で客員教授として教鞭を執り、日本パデレフスキ協会会長を務めている。オフィシャルウェブサイト <https://yokoyamayukio-official.bitfan.id>



1公演1P



ピアノ ヴァイオリン チェロ

葵トリオ 秋元 孝介 小川 響子 伊東 裕

～ピアノ三重奏の世界～



国内外問わず活動の幅を広げている葵トリオさんによる公演を 2025 年 10 月 5 日 (日) にさくらプラザ・ホールで開催します。秋元 孝介さん、小川 響子さん、伊東 裕さんに「葵トリオ」結成時から現在に至るまでのお話や公演の見どころについてお伺いしました。

—葵トリオが結成されたきっかけを教えてください。

**秋元 孝介 (以下、秋元)** —3 人ともサントリーホール室内楽アカデミーに同じタイミングで参加していて、なおかつ同じ大学、関西出身など共通点がいっぱいあるので「いつか 3 人で関西でコンサートをしたいね」と話していたことが最初のきっかけです。

—大学からご一緒とのことで、最初に出会った時と現在では印象が変わりましたか？

**伊東 裕 (以下、伊東)** —秋元を初めて見たのは、芸大のモーニング・コンサートでした。選ばれた人だけが出演できる演奏会で、当時学部 3 年生だった秋元がチャイコフスキーのピアノ協奏曲第 1 番を弾いていたんです。それを聴いて、「すごい人がいるな」って思いましたね。ただ、その頃に客席から見た秋元はすごく細くて……。その後、室内楽アカデミーで話すようになったときも、同一人物だと気づけなかったんです。1 年くらい経ってやっと「あのときの！」と。今との印象の違いは、まず体格が全然違います。小川とは中学生のときに京都で出会いました。森悠子先生が開いたおさらい会で、ミルシュテインの《バガニニアーナ》という超絶技巧曲を弾いていて、その演奏が本当にすさまじかった。あとで同じ年だと知って、焦る必要はないとわかっていても、すごく焦りましたね。今は当時よりもずっと表情豊かで、オープンで明るく、感情豊かな人だなと思います。

**小川 響子 (以下、小川)** —秋元とは、大学の英語の授業でたまたま隣に座って、英会話をしたのが最初の出会でした。その後サントリーホール室内楽アカデミーで再会し、2 年間に学ぶことで親交を深めました。アカデミー開始当初は寡黙な印象で、アカデミー生の中で最年少ながらお父さんのポジションで、みんなを見守っているような印象でした。今の印象は、すごく開らかで責任感が強い人で、とても信頼できる素晴らしい方です。伊東との出会いは中学生の時で、当時からチェロが本当に素晴らしく、「天才少年」でした。同郷で同じ年に、こんなにすごいチェロの人がいるんだなど、大変驚きました。寡黙に見えますが、とても好奇心が旺盛で話の引き出しが多く、たくさんの話題を提供してくれます。MC でも常に笑いを 1 つは取ることを目標にしているようで、関西人魂も持ち合わせています！

**秋元** —私も伊東とは、楽器も学年も違うから関わりがなく、室内楽アカデミーの時が初めての出会いでした。当時は人見知りでクールなイメージだったけど、小さいころからテレビにも出ていた人だったので名前はもちろん認識していました。今の印象は、よく話す人という感じです。リハーサルの休憩中の雑談の話題提供も伊東から始まることが多いです。好奇心旺盛で話の引き出しが豊富などところが面白いと思います。

小川は、初めて会った頃はカッコイイという印象がありましたが、今は芯がありながらしなやかな人間性を感じます。そのしなやかな感じは演奏にも出てるとよく感じます。

—思い出に残っている公演はありますか？



左から伊東 裕さん、小川 響子さん、秋元 孝介さん

**秋元** —公演とはちょっと違いますが、2018 年に参加したミュンヘン国際コンクールのセミファイナルのステージが思い出に残っています。一次予選や二次予選は残ることを意識せずとにかく一生懸命に弾いていましたが、セミファイナルまで残ると嫌でもファイナルや入賞を意識し始めてしまうんです。そのため特に緊張したのがセミファイナルで、ある意味思い出に残っています。

**小川** —私もミュンヘン国際コンクールでの演奏が大変印象に残っています。私たちにとって初めてのコンクールで、まさかファイナルに行けるなんて思っていないで、嬉しさ反面、驚きの連続でした。実は、ファイナルの時の演奏で、譜めくりがうまくいかず、それがきっかけで肩当てが外れるアクシデントがありました。演奏を終えて舞台袖に帰ってきた時に、達成感と同時に、みんなに迷惑をかけてしまった、申し訳ない気持ちになって泣いてしまった苦しい思い出もあります。私たちの転機となり、またコンクールという究極の緊張の中での演奏で、大変印象に残っています。

**伊東** —ミュンヘン国際コンクールは人生の中で一大イベントだったので、忘れることはありません。なかでも強く覚えているのはファイナル。最後の課題曲がシューベルトで、もともと好きな作曲家ということもあって、本当に感動しながら弾いていました。演奏が終わったあと、小川が泣いていて、『ああ、感動して泣いているんだな』と思ったら……。実は肩当てが外れて泣いていたそう。『あ、ちがった……』って (笑)。

**小川** —もらい泣きしてたよね (笑)。

**伊東** —でもすごく良い思い出になっています。

—トリオはソロとは違った大変さがあるかと思いますが、チームで活動をする秘訣はありますか？

**秋元** —私たちの場合は大きな喧嘩はしませんが、問題が起こりそうになったら話し合いをすることが多いです。最近私が思ったのは、他人との接し方や距離感、物事への姿勢が似ていることがグループでは大切かもしれませんが、常日頃から 3 人で行動している訳ではありませんが、ツアーが続くと移動や食事など一緒にいる時間が長いので、そういったちょうど良い距離感や居心地の良さも大事なのかもしれません。

—演奏はどなたが引っ張っていくことが多いですか？

**秋元** —古典派の作品はピアノが内容の多くを占めていることが多く、ピアノの比重が高い傾向にあります。でも場面によって主導権を握る人は常に変わります。誰しもにメロディーが回ってくるし、誰しもが裏方に行くこともあるし、



コンクール時の写真

©Daniel Delang\_1828

その掛け合いこそがトリオの面白いところでもありますね。

**小川** —よく「リーダーはいるんですか」と聞かれることがありますが、リーダー気質の人がいなくて、それが我々の特徴であると思います。厳密に言えば我々 3 人は、好きな音楽も方向性も違うのですが、それぞれの良さを活かし、お互いから学んで、みんなが納得できる着地点を探すというリハーサルを行なっています。

—音楽以外に、趣味などはありますか？

**伊東** —漫画とゲームが子どもの頃から大好きです。留学中によく、秋元のお家に泊まらせてもらっていて、その時は必ずゲームを持って行ってました。一緒にやろうよって誘うんですけど彼はあんまりゲームが好きじゃないので……。同じ部屋に居るのに違う友達とゲームをしてました。なんでこんなに面白いのにハマらないんだろうってずっと言っています。漫画もすごく好きなのですが、おすすめしても多分読まないです。

**小川** —うどんを食べることが趣味で、演奏で各地に行った際も、まずその土地のおいしいうどん屋さんを調べて足を運んでいます。ドイツ留学中は、自分でうどんを打っていました。

**秋元** —水泳が好きなんですけど、夏のこの時期は暑さでプールに行くまでが大変なので行く気にならず、夏は趣味といえるものがなくなってしまいます。家で一人の時は晩御飯を作る時や寝る前にラジオを聴いたりする生活を送ってます。



—今後も葵トリオを続けていく中で、挑戦してみたいことはありますか？

**秋元** —レコーディングにもっと取り組みたいなと思っています。録音は形に残るものですし、その曲について深く考えるきっかけになるので。もちろんコンサートのために時間をかけて取り組むんですが、録音はたくさんのコンサートを経てから録ることが多く、より深く作品のことについて考えたり、実験をしたり、その曲をしゃぶりつくするような感覚になるのが楽しいです。それでも昔の録音を聴くと「なんでこう弾いたんだろう」と思うこともあります。そういうも含めて自分は作品と向き合う時間として、レコーディングが好きです。

**小川** —私たちは来年で 10 周年を迎えます。この夏、私たちは初めて自主企画でマスタークラスを開催しました。若い音楽家で室内楽をやりたい人は多いですが、時間やお金など、さまざまな制約もあり、コンクールまで受ける団体はなかなか限られています。私たちはとても恵まれて、室内楽のいい経験をたくさん積んできました。それを次世代にシェアしたり、一緒に曲を勉強して高めあったり、という教育的な活動も、今後行なっていきたいと考えています。

**伊東** —もともと 2020 年はベートーヴェンの生誕 250 周年のメモリアルイヤーだったので、サントリーホールのチェンバーミュージック・ガーデンでトリオとしてベートーヴェンのピアノ三重奏の作品を全曲演奏する企画があったんです。でもコロナ禍で流れてしまって、結局できませんでした。演奏会でペー



©T. Kawai

トーヴェンだけを弾くって、なかなかシビアなんです。演奏する側も大変ですし、お客さんにとっても聴くのはかなりエネルギーがいることだと思います。それを改めて、2027 年に開催することになりました。本来の予定から 7 年経っての挑戦ですけど、自分としては結果的に良かったなと思っています。もし 2020 年にやっていたら、きっと未熟なままで、必死に弾いて終わってしまっていたはず。でもこの 7 年で 1 曲ずつじっくり向き合う時間が持てて、それを一気に披露できるのは大きな挑戦ですし、本当に楽しみです。

—戸塚のお客様に向けて、公演の見どころやメッセージをお願いします。

**秋元** —今回のプログラムにあるチャイコフスキーは名曲ですが、今まで 3 人で演奏したことがなかったんです。様々なアーティストによって演奏されてきた名曲を自分たちはどう弾くだろうと客観的に楽しみな気持ちがあります。珍しいことをやろうとか自分たちの色を出そうとか、そういうことは普段から思っていますが、この名曲をしっかりと自分たちで噛み締めて、素晴らしさをお客様とシェアしたいです。

**小川** —私は戸塚区に伺ったことがないので、まずはお伺いできることがとても楽しみです。初めての場所で弾かせていただくのはすごく嬉しいですし、その土地のお客様ごとに雰囲気や全く違ったりして、最初にホールでゲネプロをするときに場所を試行錯誤したりだとか、そういう作業が面白いです。新しいホールで弾かせていただけるということで、すごくワクワクしています。

**伊東** —ピアノ三重奏や室内楽の入門として楽しんでいただきたいです。スケールの大きい曲をたくさん弾くのでそういった魅力をたくさん味わって帰っていただけたら嬉しいなと思います。

取材・構成/石田 佑季 インタビュー写真/近藤 喬之

第 67 回ミュンヘンコンクールで優勝した、最も注目を集めるピアノ三重奏団。王道演目だけでなく、演奏機会の少ない作品や邦人作品にも光を当てる活動で、ピアノ三重奏の世界を開拓している。東京藝術大学、サントリーホール室内楽アカデミーで出会い、2016 年に結成。[葵/AOI] は、3 人の名字の頭文字をとり、花言葉で「大望、豊かな実り」を意味。これまでに国内の主要なホールのほか、欧州各国、シンガポールで出演。札幌、名フィル、アンサンブル金沢、大フィルと協演している。紀尾井ホールレジデント (2021-2023)、サントリーホールと 7 年間プロジェクト (2021-2027)、ふきのとうホールのレジデント (2025-2027) を務める。近年では室内楽のマスタークラスで講師も務める。リリースした 9 枚の CD は各誌で好評を集める。第 28 回青山音楽賞パロクザール賞、第 29 回日本製鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞、第 22 回ホテルオークラ音楽賞、第 34 回ミュージック・バンクラブ音楽賞を受賞。

アメリカの文化芸術をもっと楽しみ、ちょっと詳しくなっちゃおう

小田 直弥

★★★★★ 特別号 ★★★★★

アメリカの歌を、生演奏で聴いてみませんか？

横浜市は世界の8つの地域と「姉妹・友好都市」の提携をしています。その最も古い提携先はアメリカのサンディエゴ市です。私たちの身近には、アメリカ発祥のものがたくさんあります。例えば携帯電話やYouTube、ハンバーガーやコーラ、野球やバスケットボール、ジーンズやTシャツもアメリカ発祥です。加えて、アメリカは音楽や文学といった文化芸術にもたくさんの魅力があります。そこで本連載を「アメリカの文化芸術をもっと楽しみ、ちょっと詳しくなっちゃおう！」と題し、音楽と教育を専門とする小田直弥さんと、アメリカ文学を専門とする土屋陽子さんの2名でお届けします。

10月17日(金)、名曲サロンシリーズ Vol. 43「演奏とお話で楽しむ！アメリカのミュージカルと歌曲の魅力」を開催予定です。この演奏会は、本連載で紹介した作品などを含むアメリカの歌を、実際に生演奏でお楽しみいただきたいとの思いで、企画されました。歌は、戸塚高校出身で、藤原歌劇団正団員の五味由利子さん(ソプラノ)、お話とピアノは小田直弥(私)が担当させていただきます。また、アメリカの歌をもっとお楽しみいただくために、連載をご一緒させていただいている土屋陽子先生に、演奏会で取り上げる作品の日本語訳、そして当日配布予定のパンフレットでの解説をお願いしました。実は、アメリカの歌に焦点を当てた演奏会は、日本では珍しく、なかなか聴くことはできません。今回の演奏会は、名曲サロンシリーズとして本演奏会を位置づけてくださった戸塚区民文化センターの皆様、ソプラノの五味さん、アメリカ文学が専門の土屋陽子先生、アメリカ英語のディクショナリーや解釈のアイデアをくださった先生方など、多くの方々の温かなご協力によって成立する、貴重な機会です。なかなか体験できない演奏会を、ぜひ、お楽しみいただけますと幸いです。

演奏会で取り上げる作品について、簡単に紹介します。ミュージカル映画『サウンド・オブ・ミュージック』より「サウンド・オブ・ミュージック」、ミュージカル『ピーター・パン』より「ドリーム・ウィズ・ミー」、ネッド・ローレム(1923-2022)作曲の「春の朝」、演奏会はこれら3曲から始まります。「ドレミの歌」や「エーデルワイス」など、名曲の多い『サウンド・オブ・ミュージック』から、オープニングにぴったりな、美しい1曲を選びました。『ピーター・パン』は、ディズニー映画としてご存知の方も多いと思いますが、レオナルド・バーンスタイン(1918-1990)が作曲したミュージカル版より、ウェンディの美しい歌をお楽しみください。「春の朝」は、その歌詞の最後の部分が『赤毛のアン』で使用されており、音楽は非常にシンプルなのですが、ソプラノの超絶技巧(極めて高い声)が含まれているなど、声の力も感じていただける作品です。

ここからは、エミリー・ディキンソン(1830-1886)というアメリカの女性詩人の詩に作曲された作品を集めて、演奏します。ロリ・レイトマン(1955-)作曲による「親愛なる3月へ」、もし、私が.....」、ジェイク・ヘギー(1961-)作曲に

よる歌曲集『日ごと、新しく』、これらの作品、お気づきいただけるかもしれませんが、現在も活躍中のアメリカの作曲家の作品を取り上げます。少しマニアックな話になるかもしれませんが、日本で演奏されるアメリカ歌曲と言えば、アーロン・コーブランド(1900-1990)やサミュエル・バーバー(1910-1981)の作品が多く、ロリとのメールのやりとりの中で、彼らにとってのコーブランドやバーバーは、僕たち日本人にとっての山田耕筰(1886-1965)や中田喜直(1923-2000)のような感覚なのだと思いました。「アメリカ歌曲は今でも新しい曲が生まれ続けている！」というロリの言葉を、ぜひ、戸塚のみなさんにも感じていただきたいと強く思い、聴きやすく、堅苦しくない彼らの“いま”の作品を演奏したいと思いました。これらの作品は、もしかすると、日本初演になるのではないかと考えています。

演奏会の最後は、バーンスタイン作曲の歌曲集『音楽なんて大きらい』から、3曲を演奏します。この歌曲集は、日本でもよく演奏されると思いますが、何度聴いても新鮮で、「これぞアメリカ！」という雰囲気を感じます。伝統や常識なんかにとられない、むしろ積極的に壊していく、それでいて楽譜はシンプルで、演奏を聴いていても笑える作品です。アンコールも準備しておりますので、それはどうぞ、当日の楽しみにしてください。

ミュージカルなアメリカ、繊細なアメリカ、ぶっ飛んでいるアメリカ、様々なアメリカを、歌を通してお楽しみいただけますよう、チーム一丸となって準備を進めていきます。お話あり、日本語訳配布ありの45分間のコンサート、ぜひ、ご来場ください。

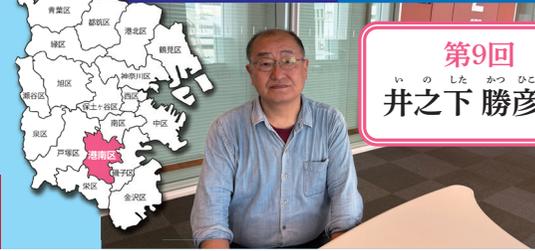


小田 直弥

弘前大学教育学部ピアノ研究室助教。東京学芸大学でも未来研究所学術フェロー。歌曲ピアニストとしてはイタリア、ドイツ、フランス、日本の歌曲に加え、アメリカ、イギリスの歌曲の演奏にも力を入れている。研究活動は、演奏家のためのマタニティコンサート研究(科研基盤 C:25K03770)、ヤマハ株式会社との共同研究等、教育活動は合唱団よびごえ(2016~)、MUZA ミュージック・カレッジ 2023、2024への登壇等がある。



リレーインタビュー 横浜横断！地域連携コーディネーターに今を聞いてみた



第9回  
いのしたふつひに  
井之下 勝彦さん

神奈川ぞうれっしゃネットワーク事務局  
〒234-0052  
横浜市港南区世下2-21-16-305  
TEL/FAX: 045-846-6288  
※訪問を希望される場合には事前にお問合せをください。



作られている広報誌

このコラムでは横浜市18区で地域の課題解決のために、コーディネーターとして「地域と人と組織」をつなぐ橋渡し役をしている方たちにインタビューを行います。

一ご自身の活動に関して伺わせてください。  
神奈川ぞうれっしゃネットワークの事務局長をしています。この活動は第二次世界対戦中に名古屋の東山動物園の象を処分しなければいけないということがあり、それでもなんとか生かすことができないか、そのことに悩んだ方々の体験、戦後に子どもたちが列車に乗って生き残った象に会いに行ったという話を元にした、平和の象徴としてこの話を多くの方に知っていただくというものです。「ぞうれっしゃがやってきた」という絵本を始め、様々なコンテンツになっているのですが、その中の一つに合唱曲と合わせた音楽劇があり、メンバー募集し多世代で歌って伝えるというのをしてみました。これがメインの大きな活動だったのですが、新型コロナウイルスの影響もあり、合唱に関しては現在活動できていません。私は情報誌などを作り、会員の皆様や世の中に情報を発信しています。絵本などにもなっていますので、ぜひこのことを知っていただくと嬉しいです。

一多世代の方々と連携をとる時に心がけていることを教えてください。  
お考えを持っているかによっても異なると思いますが、明確な目標をしっかりと伝えないと、こちらの意図していることがうまく伝わらないことが多いように思います。私は今まで多くの方に助けていただきましたし、様々なチャンスもいただいてここまでやってきました。もちろんうまくいったことも、いかなかったこともあります。今はそれを感謝しとは違いますが、人に与えることができればと思います。様々な活動をしています。ですから、他の県の会が何かやると聞いたら駆けつけてお手伝いをしていますし、私ができることがあれば、なんでもお手伝いをしています。



過去のコンサートの様子

一今後、人と人を繋ぐ役割をしている方をどのように育てて行ったら良いと考えていますか。  
とても難しいですね。というのもそもそも私自身がそういった役割をしているのかわかりません。ただ、合唱にしてもメンバーを募集して活動する際、様々な特性を持った方々が参加してきてくださっていました。健康者の方もいれば障がいを持っている方、子どもからお年寄りまで様々です。そうした時に、皆さんが気持ちよく参加できるように、間違った方向を向いている方にはしっかり言葉にして伝えてきました。育てるという意味では自身が行動で示し、明確に言葉にすることが大切ではないでしょうか。

一今後の活動について教えてください。  
私も若い年齢なので、うまく進められていないこともありますが、新型コロナウイルスでお休みをしまっている合唱を再開して、ホールを借りてたくさんの方と舞台上で演奏するのを、多くの方々に観ていただきたいですね。

人は皆 背中語る...  
ミカエリトツカジン  
見返戸塚人  
戸塚の魅力あふれる方々をご紹介します。

一鈴木さまのことをお聞かせください。  
出身は静岡県浜松市です。浜松といえば、ピアノメーカーの“ヤマハ”で有名なこともあり、ピアノが身近な環境で育ちました。小さいころから趣味程度にはなりますがピアノを弾いていたり、小学校の時の工場見学が“ヤマハ”だったりして、ピアノに触れる機会が多い環境で育ったと感じます。音大に行きたいというよりは、ピアノの生産や調律に興味があったのでそのまま調律学校に入り、地元のメーカーに就職しました。当時はまだ国産のピアノ製造も盛んで、工場ですべてのピアノを作ったりもしていました。ですが、製造よりもピアニストの方と直接関わる調律やコンサート系の業務をやりたいなと思って、東京にあるスタインウェイの代理店に転職し経験を積んだのち、独立して今に至ります。  
一お仕事について教えてください。  
調律師と聞くと、ピアノの音を整える仕事というイメージが強いかもしれませんが、私のところでは修理まで含めて幅広く対応しています。中には、木材から削り出すような本格的な修理を行うこともあり、業界の中でも少し珍しいかもしれません。ピアノに関することは「だいたい何でも！」という感じですね。実際、調律の際には「ここは直したほうが良さそうだな」と気づくことも多く、流れて修理まで引き受けることもよくあります。  
一やりがいについて教えてください。  
やはり、ピアニストが思い描いていた音を表現できている姿を見ると、「ああよかったな」と思います。調律や修理なんかもそうなんですけど「こういうのができるようになった」と言っていたのが一番面白いというやりがいを感じます。ピアニストによって調律の仕方は全然違います。ピアノの音には「正解」がなく、あるピアニストにとっては最高でも、別の方にと

顔見世  
鈴木 峻さん  
《言葉と音で紡ぐ調律》  
ては合わないこともある。音のバランス、タッチの感覚はもちろん、一番難しいところというステージ上のピアノの位置とかでも、客席からの聞こえ方は本人はわからない、客席で聴いた音を伝えつつ、調整を重ねていきます。アーティストさんとのコミュニケーション、すり合わせは本当に重要だと思っています。その分、難しさもありますが、だからこそ面白い。最初のころは大変でしたが先輩の仕事を見て学んだり、自分なりに試してみたり...技術だけでなく、言葉のやり取りや人との感覚のすり合わせがとても大切だと日々感じています。  
一こだわりや目標について教えてください。  
まずは、ピアニスト第一であること。それが一番のこだわりです。喜んでいただけることが何より嬉しいですし、そのために全力を尽くしたいと思っています。将来的には、自分たちでピアノを作ることが夢です。できれば戸塚で、地元発のピアノを形にしたい。そして、若い世代の方にも、もっと「調律」という仕事に興味を持ってもらえたらと願っています。家庭にピアノがあっても、調律に触れる機会は少ないので舞台の裏側で支えるこうした仕事の魅力も、もっと知っていただけたら嬉しいです。  
一戸塚の皆さまへメッセージをお願いします。  
横浜とのご縁は、明治時代に「松本ピアノ」というメーカーが日本で最初にピアノの“組み立て”を行ったという歴史を知ったことがきっかけです。横浜は実はピアノとゆかりの深い土地。戸塚にもその流れを感じ、ここに拠点を構えることにしました。戸塚には、音楽に触れるチャンスがたくさんあります。ぜひ、気軽に音楽に親しんでみてください。さくらプラザにもぜひ足を運んでいただけたら嬉しいです。調律はもちろん、修理も得意としていますので、ピアノのことで何かあれば、いつでもご相談ください。

戸塚人に逢いに行こう!  
株式会社  
コンソナンティアピアノス  
横浜市戸塚区名瀬町 377-10  
Instagramアカウント  
@consonantia\_pianos

次号の戸塚人は...?  
この後ろ姿から何処のどなただろうと想像してみてください。次号では見送りポーズでお顔を公開します!

# さくらプラザコンサートスケジュール

チケットはお電話(045-866-2501)でご予約いただけます。(一部除外あり)  
 詳細は各公演チラシをご覧ください。出演者・曲目などは変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。  
 ※学生券は公演当日に学生証を必ずご持参ください。※チケット料金は総額表示です。

主催

## 假屋崎省吾 × 横山幸雄 ピアノと花の華麗なる世界

全席指定  
 一般 5,800円  
 横浜市民 5,000円  
 EX(聴衆参加費別) 2,000円  
 学生 1,500円



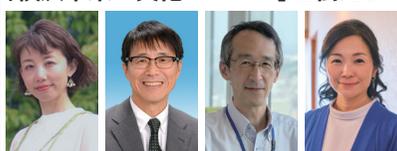
假屋崎 省吾 (華道家)  
 横山 幸雄 (ピアニスト)

9/14(日)  
 14:00開演  
 休憩あり

好評  
 発売中

会場 ホール

## アートマネジメント講座 21 シンポジウム これからの考える 「横浜未来の文化ビジョン」と私たち



鈴木 奈津子 (Image Nation Green 理事)  
 緒方 泉 (九州産業大学 地域共創学部特任教授)  
 鬼木 和浩 (横浜市さくらホール文化局 文化振興課長(主任補佐))  
 船本 由佳 (ライオンデザインラボ所長)

参加料 無料

予約受付中

9/20(土) 15:00 開演

会場 戸塚区総合庁舎3階  
 多目的スペース(大)

## 第67回ミュンヘン国際音楽コンクール ピアノ三重奏部門 日本人初優勝

### 葵トリオリサイタル

全席指定  
 一般 3,500円  
 横浜市民 3,000円  
 EX(聴衆参加費別) 2,000円  
 学生 1,500円



秋元 孝介 (ピアノ)  
 小川 響子 (ヴァイオリン)  
 伊東 裕 (チェロ)

10/5(日)

14:00開演

休憩あり

会場 ホール

好評  
 発売中

## 名曲サロン シリーズ Vol.43 情報誌SAKURA 連載 「アメリカの文化芸術をもっと楽しみ、ちょっと詳しくなっちゃおう」関連企画 演奏とお話で楽しむ!アメリカの ミュージカルと歌曲の魅力

全席自由  
 各回 一般 1,000円

10/17(金)

①11:30開演

②14:30開演

好評  
 発売中



五味 由利子 (ソプラノ)  
 小田 直弥 (ピアノ・解説)

会場 リハーサル室

こどもたちよ、アートはあなたを自由にする! 受付開始 9/26(金)~

## こどものための芸術の学校 演劇ワークショップ

受講料 無料 11/26(水)・27(木) 17:45開始 (17:30受付開始)

有吉 宣人 (俳優)



会場 リハーサル室

## 鈴木 理恵子 & 若林 顕デュオコンサート ヴィヴァルディ「四季」※第2部

全席指定  
 一般 3,500円  
 横浜市民 3,000円  
 EX(聴衆参加費別) 2,000円  
 学生 1,500円

ヴィヴァルディ「四季」  
 山本 千鶴、吉成とも子 (第1ヴァイオリン)  
 山田 百子、谷口 亜美 (第2ヴァイオリン)  
 百武 由紀、大木 美穂子 (ヴィオラ)  
 和田 雅治 (チェロ)  
 池松 宏 (コントラバス)  
 辻 文栄 (チェンバロ)



若林 顕 (ピアノ)  
 鈴木 理恵子 (ヴァイオリン)

電話予約開始 9/24(水) 14:00~  
 12/20(土) 15:00開演 (14:30開演) 休憩あり

まもなく  
 発売

会場 ホール

## らららん♪ドレミシリーズ Vol.30

### 0歳からのコンサートデビュー!

~親子でたのしむ クリスマスコンサート~

全席自由  
 各回 500円

※0歳から有料

電話予約開始 10/16(木) 14:00~

12/25(木) ①10:30開演 ②11:45開演

会場 リハーサル室



忍田 結梨 (フルート)  
 家中 紫音 (パーカッション)  
 鳥田 そよか (ピアノ)

まもなく  
 発売

## LEO 箏リサイタル

全席指定  
 一般 3,500円  
 横浜市民 3,000円  
 EX(聴衆参加費別) 2,000円  
 学生 1,500円



LEO (箏)



林 正樹 (ピアノ)



U-zhaan (タブラ)

電話予約開始 10/24(金) 14:00~  
 2026年1/10(土) 14:00開演 休憩あり

まもなく  
 発売

会場 ホール

共催 下記共催公演のチケットはさくらプラザでは窓口のみ取扱い

## コンセール・アミティエ 第65回 音楽サロン plus

~皆さんと一緒に~

出演: 前田 陽一郎、北村 真紀子、吉府 充希子  
 (Duo corde (ピアノデュオ)) (ソプラノ)

全席自由 各回 前売り 1,000円/当日 1,500円

主催: コンセール・アミティエ

9/30(火) ①10:45開演 ②14:15開演

会場 リハーサル室

好評  
 発売中



## 新春さくらプラザ寄席

笑う門には福来たる。新春初笑い!!

全席指定  
 一般 3,500円  
 横浜市民 3,000円  
 早割 (早場参加費別) 2,500円



柳家小せん



屋気楼龍玉



林家きく麿 入船亭扇里 遠峰あこ (アコーディオン・演説)

早割受付期間  
 10/15(水) 14:00~11/5(水) 21:00  
 2026年1/24(土) 13:30開演 (13:00開演)

まもなく  
 発売

会場 ホール

## コンセール・アミティエ 音もだちコンサート Vol.5

クラシック音楽と童謡で紡ぐ楽しい時間♪

全席自由 各回 前売り 500円/当日 800円

チケット販売開始 9/20(土) 9:00~

主催: コンセール・アミティエ

11/20(木) ①10:30開演 ②11:45開演

会場 リハーサル室



阿世知 路子 北村 真紀子 吉府 充希子  
 (リトミック&ナビゲーター) (ピアノ) (企画)

まもなく  
 発売



Vol.74

9・10月号

2025.9.1発行

### 編集後記

いよいよ芸術の秋真っ盛り、さくらプラザでは幅広い世代に向けて様々なイベントをご用意しています。ぜひお気軽にお立ち寄りください。

(近藤)

TEL: 045-866-2501 FAX: 045-866-2502

〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町16-17戸塚区総合庁舎 4F

event@totsuka.hall-info.jp

https://totsuka.hall-info.jp

さくらプラザ 検索 ※通信料が発生します。



戸塚区民文化センター さくらプラザ